2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼間部		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	音声学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	前期 木曜1限	教室名	4校舎301
担 当 教 員	松井 理直	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
日本語音声の特徴について深く理解することを目指す。						
《成績評価の方法と基準》						
計算問題を含む選択式のテストによって、成績を評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書として『言語聴覚士のための基礎知識:音声学・言語学』(医学書院,今泉敏編集)を用いる。また補助資料としてプリントを配布する。参考図書には『日本語音声学入門』(三省堂,斎藤純男著)を用いる。						
《授業外における学習方法》						
必ずその日の内に復習を行い,授業で習った内容についてきちんと理解すること。復習時に疑問点が出てくれば,必ず次の授業の最初に質問すること。						
《履修に当たっての留意点》						
わからない点があれば,その時点で必ず授業をとめて,質問をするようにしてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声と音韻という概念の区別をしっかりとつけると共に,有声・無声に関わる発声の生理的メカニズムを理解し説明できる。	教科書とハンドアウト		音声と音韻の違いを理解すると共に,発声のメカニズムを人に説明できるくらいまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	音声と音韻,発音の基礎としての発声。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	受動的調音期間,能動的調音器官について理解し説明できる。	教科書とハンドアウト		受動的調音器官と能動的調音器官の名称を暗記すると共に,その対応関係を理解するまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	調音器官について。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	気流の妨害の程度について理解し説明できる。	教科書とハンドアウト		調音方法の名称を完全に暗記すると共に,その説明ができるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	調音方法について。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	発音記号の必要性について理解し説明できる。	教科書とハンドアウト		国際音声記号の考え方や,発音記号の多様性について理解できるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	国際音声記号の導入。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	IPAの母音表の仕組みと日本語5母音の特徴を理解し説明できる。	教科書とハンドアウト		母音の調音について理解すると共に,日本語5母音の特徴を理解できるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	母音表と日本語の母音発音。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	音韻と音声の関係について理解を深め説明できる。	教科書とハンドアウト	音素と音声の概念をしっかりと理解できるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	音素と異音		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヤ行・ワ行・マ行・ナ行・ラ行の特徴について理解し説明できる。	教科書とハンドアウト	日本語共鳴音について、発音記号で書けるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	日本語共鳴子音の特徴。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	タ行・サ行・ハ行の特徴について理解し説明できる。	教科書とハンドアウト	タ行・サ行・ハ行の異音を発音記号で書けるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	日本語無声子音の特徴。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語におけるハ行とバ行の特徴を理解し説明できる。	教科書とハンドアウト	日本語の語種について復習すると共に、ハ行とバ行の関係を理解できるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	ハ行とバ行について		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	いわゆる濁音について理解し説明できる。	教科書とハンドアウト	日本語のバ行・ダ行・ザ行・ガ行の異音について発音記号で書けるまで復習すると共に、弱化現象について説明できるようになること。
		各コマにおける授業予定	日本語有声阻害音の特徴。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	ダ行とザ行における中和現象について理解し説明できる。	教科書とハンドアウト	いわゆる四つ仮名の生起について説明できるようになるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	いわゆる四つ仮名について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	韻律構造について理解を深め説明できる。	教科書とハンドアウト	モーラと音節の関係を理解できるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	モーラと音節。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	特に日本語アクセントの特徴を理解し説明できる。	教科書とハンドアウト	東京方言アクセントに親しめるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	アクセントの基本。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	アクセントに関する言語的規則を理解し説明できる。	教科書とハンドアウト	複合語のアクセント現象を説明できると共に、母音の無声化とアクセントの関係を説明できるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	複合語アクセントと母音の無声化。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	イントネーションの諸現象を理解し説明できる。	教科書とハンドアウト	句末イントネーション、句頭イントネーション、でクリネーション、ダウンステップなどを理解できるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	東京方言のイントネーション		